

ご挨拶

会長古館正従

このたび、第34回日本核医学会総会を、札幌市で開催させていただくことになりました。会長指名を受けて以来、その栄誉と責任を感じながら、総会開催に向けて微力ながら教室関係者一同、全力をあげてその準備をすすめて参りました。幸いにも学会理事、評議員、さらに関係団体の方々からのご協力、ご支援をいただき、ここに開催するまでに至りましたことを深く感謝申し上げます。

今回の総会の応募演題数は776題にのぼり、過去最大数に達しました。13年前札幌開催の際が459題であったことを思うとき、改めて核医学の着実な発展を会員の皆様と喜びたいと思います。

今回の主眼の一つは従来並列に実施していた教育講演（9題）を第1会場で直列に配置し、受講者の便宜を図り、核医学臨床医の生涯教育の場となることを願ったことです。一般演題も同時進行ですが、教育講演の主題とだぶらないように配置しております。特別講演は北海道大学総長 廣重 力先生に「来るべき医学革新と物理学——生体振動研究者の一視点——」というテーマでお話しいただくことにいたしました。先生は生理学者であり、専門の生体リズムに関する興味あるお話を伺うことができるものと期待されます。招待講演3題、シンポジウム2題等も第1会場で開催されます。一般演題の発表でもプロジェクターは2台使用可能にしましたので、効率のよい発表が期待できると思いますが、発表時間の厳守をお願いいたします。

ランチョンミーティングも企画いたしました。学会での昼食時を有意義に過ごせればと願っております。

最後に本学会に関係していただいた皆様方のご協力に厚く御礼申し上げ、第34回日本核医学会総会が多数の会員の参加により、実り多い有意義な集会となりますようお願い申し上げます。

なお、プログラム編成にあたり、下記の委員の皆様にご尽力いただきました。誌面をかりてお礼申し上げる次第です。

1994年7月